

いろいろといろいろく



なほ

この本は

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO6です。

一冊目 <http://p.booklog.jp/book/36687>

二冊目 <http://p.booklog.jp/book/47555>

三冊目 <http://p.booklog.jp/book/49689>

四冊目 <http://p.booklog.jp/book/51371>

五冊目 <http://p.booklog.jp/book/52955>

すきなほん

好きな本について呟いたらリプがきた。
私も一言一句諳んじられる程好きですって。
それから僕ら沢山話して、本の続きまで考えたね。
君ともっと話がしたくて僕は再び本を読む。
どういふこと。本には続きが出来ていた。
知っている。これは僕らが作った続き。
ねえ。君は一体誰ですか？

[#twnovel](#)

図書館の君

閉館チャイムと共に図書館の君は立ち上がる。

今日こそ想いを伝えたい。

外へ出たなら声をかけてそれから。なんて思っていたら扉の手前で左に逸れる。

奥へと戻った君は本棚に身を委ねると、一冊の本に身を変えた。

君を手にする。

そして僕は貸し出し手続きのため、初めて図書館を走った。

[#twnovel](#)

闇夜

お前には闇などだせねえよ。

師匠は言った。

暗闇の絵などは百年早い。

だけど師匠は知らないだけだ。

時代のせいで闇夜なんかは知らないけれど、僕らの世代、絶望という名の闇は深い。

僕は闇を知っている。

[#twnovel](#)

足りねえな。

その年にしちゃいい闇だけど。闇ってまだまだこんなじゃないぜ？

王者

あなたが落としたのはこの金のメダル？それとも銀のメダル？

首を傾げて問う女神。

俺は彼女の手を取った。

「そんなものどうでもいい。俺が落としたいの美しい貴女だけだ」

手の甲に口付ける。微笑む貴女。これで万全。

勝利の女神を味方につけた者こそ、ここでは王者になれるのだ。

[#twnovel](#)

レンタル

今日でレンタル一週間。

返しにいろいろと探すと案の定見当たらない。

いつもそうだ。

返却日には大搜索。さては外か。

僕とあいつ、勝つのはどっち。

[#twnovel](#)

借りてきた猫は大人しい。探すのも一苦労だ。

あいつらにはしっかり躰がなされてる。

「返却日には姿をくらます」

延滞料、高いんだよな。

恋の質量

失恋した。胸が痛い。

今回の痛みはこんなものか。

前彼の方が傷は深かったみたい。

気づいたの。

いい恋であればあるほど痛みは大きいって。

失恋の痛みで恋は量れる。

いつか本物を見つけだすために、これは必要な痛みなの。

[#twnovel](#)

彼が出来た。

今度こそ本物かしら？

お別れするのが楽しみね。

戦場観光

最もスリリングな観光、ということで戦場観光が流行ってる。

俺ら兵士の殺し合いを見学するというのだから金持ちの考えることは解らない。

ある日一人の観光客が流れ弾で死んだ。

調査の結果、俺の放った弾丸と解る。

今まで星の数ほど人を殺し賞賛され続けた俺の死刑がこの日決まった。

[#twnovel](#)

夏スイッチ

これが終わればようやく全ての夏の風物詩にスイッチが入る。

蝉もかき氷も入道雲も熱帯夜も。

スイッチがOFFのままでは始まらない。

今年も最後はこの風物詩。とても素敵な、ひと夏の恋。

いれた途端に動き出し、誰かの心に忍び込む。寿命はひと夏。

素敵な物語、ありませんか？

[#twnovel](#)

ON。

うちのポチ知りませんか

ツバメに家をとられたポチはいつも彼らの子育てを眺めた。

時にタマから彼らを守り、時には餌をさしだした。

子供のいないポチには彼らはどれだけ眩しかったか。

やがて子は育ち、秋。

ツバメは南へ帰る。程なくポチは行方をくらました。

[#twnovel](#)

翌年。春先にポチは帰ってきた。

ツバメと共に。

野望

蜘蛛の巣は毎日僕の通り道に張られてる。
ここに張るのは不正解だ。毎日壊されるじゃないか。
学べばいいのに。

[#twnovel](#)

餌をとるために巣を張る。
ここに張るのは正解だ。毎日獲物が通るじゃないか。
今はまだ上手に捕まえられないけれど、頑張る。
試行錯誤で、いつかあの人間を捕獲する。

すつとんとん

転がったおむすび。すつとんとん。

どんどん転がる。すつとんとん。

石を巻き込みネズミを巻き込み、人を、車を、建物を巻き込み、下る下る、すつとんとん。

道路を巻き込み坂道巻き込み、海を、大地を、地球を巻き込み、くだらぬとこまでやってきた
なら、

パクリと消費されました。

[#twnovelOFF](#)

青い海

「おはよ」「おはよう」

「この坂きついよね」「心臓破りだよな」

「心臓、ドキドキする?」「苦しいくらい」

「あのね」「うん?」

「好きなんだけれど」「え?」

「心臓、ドキドキする?」「苦しいくらい」

君の手に初めて触れた。

てっぺんからみる青い、青い海。

[#twnoveloff](#)

終わらない

坂道は終わらない。

屋上をこえ、雲を突き破る。星の眩しさに目を細め、いつもより大きな月を仰ぐ。

先なんか見えないのに登り続ける僕。

目的地なんか知らない。

この美しい坂道を歩き続けることこそが目的なのだ。

例え最後にてっぺんから転落したとしても、決して僕は悔やまない。

[#twnovelOFF](#)

眠れぬ森の美女

茨の中、目を覚ます。

誰もいない城の中。鏡に映る老婆。これが私の現実。

百年の眠りが私に与えたものは、孤独と絶望。

そしてあの日免れたはずの死を自ら選んだ。

[#twnovel](#)

眠りを与えた魔女は笑う。

この最低の未来から、死をもって姫を逃そうとしたあの魔女を出し抜いた。

いい魔女は、どちら？

蝉ワクチン

蝉か。

幼虫時代の長い地下生活。

解決のヒントはそこにあった。

[#twnovel](#)

蝉ワクチンで妊娠期間は増大した。

十年。胎児教育を施し迷惑をかけない賢い子供を作りあげる。

少子化対策への最善策と思われたが、忙しくて教育とか無理、という母親が続出。

身体だけ大きな十歳児がぐるぐる駆け回る。

流れる

もう流されたくない。

いいように流され降るばかりの人生。

すぐわれたと思ってもしょっぱい思いをして終わる。

もう沢山だ。

流し素麺は逃げ出した。

[#twnovel](#)

今では普通の素麺として生きてる。

みかんで飾られやさしい鰹だしに抱かれる。

穏やかな人生。

けれど時々ふとあの頃を懐かしく思い出す。

盆

淋しいと、思ったんだ。

滅びた世界にかえる魂は、淋しいかなって。

だからせめて、一緒にかえることにしたの。

[#twnovel](#)

死んだ花火はお盆にかえる。

命の絶えたこの世界へ。

闇夜に乱れて咲く花は、この世のものとはとても思えぬ美しさ。

誰もいないこの世界で、この日だけ咲く満天の花々。

人件費削減

お姫様はこんなに要らない。

お伽話の世界にも人件費削減のメスが入る。

姫様達は話し合う。

何があっても物語だけは汚さない。

「我ら全員大人になります」

かくして姫はいなくなり、お伽話も消えてった。

元姫達は信じてる。

いつか誰かが恋をしてまた新しい姫になる。

恋は決して滅びない。

[#twnovel](#)

立秋

呼ばれた気がしたんだ。

私は立ち上がり、辺りを見渡す。

世界は、夏。

蝉の音がますます温度を上昇させる。

はやまったかな。

しょんぼりしていると手招きされた。

図書館で、本達がざわめく。

「待ってました」「そろそろですね」

秋の夜長はまだ遠いけど、一足早く読書はいかが？

[#twnovel](#)

本日立秋。

心が晴れないので点検して貰うことにした。

「相当汚れてんな」親方は言う。

「取り替えた方がはやそうだ」「じゃあそれで」「喝！」

親方は険しい顔。

「最近の奴らはすぐ新しくしたがる。自分の心だろ。少しは大事にしな」

僕の心を丹念に磨き続ける親方。

気持ちが少し晴れた気がした。

[#twnovel](#)

シークレットゲスト

ライブみてた。

「本日のシークレットゲスト！」

お、誰。

じゃん。

スポットライト、俺。

あれよあれよという間にステージへ。好きなバンドと夢の競演。

それからというもの「シークレットゲストよ」と噂され、時折舞台にあげられる日々。

ねえ、俺ってなにもんなの？

俺の秘密、誰か教えて。

#twnovel

眠れる薬

この薬には薬効はない。

なのにここではよく効いた。

「偽物だろう」「効くわけがない」

度重なる捜査という名の暴力にも僕は耐えた。

とてもよく効く眠れる薬だ。さあさあどうぞ、並んで並んで。

行列は続く。

僕の嘘も続く。

希望も未来もないこの世界、僕の嘘だけが眠れる薬。

[#twnovel](#)

夢であえたら

娘が困った顔をして眠っているものだから、夢にお邪魔することにした。

笑顔の旦那と私と娘、3人で絵を描いたり散歩をしたり。

素敵な一家団欒風景の中、娘だけが困り顔。

「パパとママはねこんなにここにこしてないよ。どこやったのかえしてよっ」

私は娘に駆け寄り抱きしめた。

ごめんね。

[#twnovel](#)

娘が描く動物が酷い。

ぐちゃぐちゃに何色も塗り重ねて描かれたそれは「ママも知ってる」動物らしい。

他の絵が上達してもそれだけはそのまま。これってもしや。

「この子ここにいる？」 頷く娘。

「ほらここ」 見えない。だけどいるんだ。

いつしか見えなくなってしまった幼い私のお友達。

[#twnovel](#)

夢の改善

夢でいつも会社に遅れる。

行くべき会社と行くべき時間が解らなくて、探し当てているうちにタイムアップ。

酷い心拍数で目覚める。

これじゃいけない。改善を強く願いながら眠った。

最初は同じ展開。

けれどいつもはこないメールがきて会社と時間を教えてくれた。

「尚、料金は」

料金？

[#twnovel](#)

恋愛絵馬

なんだって自分で選べる時代。
一番大事な、恋についても選びたい。
時期、シチュエーション、相手。
この絵馬に記せば思いのまま。
次々と思い描いた恋に堕ちる乙女達。
いつまでも続くめくるめく恋愛の日々。
神社には絶えない行列。
70代女子、80代女子も花盛り。

[#twnovel](#)

コミケ

アマチュアは本を売ってはいけません。

同人誌は、物々交換で手に入る。

人気サークルは大量の「物」に囲まれるため、毎年何やら工夫を凝らす。

今年はどうする？今年は何。

[#twnovel](#)

玉ねぎ、肉、人参、ジャガイモ。米とルーでも交換可能。

おいしいカレーの出来上がり。

一杯五百円、いかがですか？

コスプレ

同じコスプレの人を見つけた。

ユルキャラ着ぐるみなので中の人表情は見えない。

けれどあちらも嬉しそうだ。

「こんな所で会えるなんて」

彼は感慨深げに続ける。

「兄弟同士、離れていても趣味は似るんだね」

「兄弟？」

「兄さん！」

抱きつかれた。

ねえこの人、ファスナーないんだけど？

[#twnovel](#)

おぼんやすみ

お盆に休みなんてないわ。むしろ大忙しよ。

それを聞いて心構えはしていたけれどまさかここまで忙しいとは。

くり返し茶や菓子を運ぶ。

寺のお盆は忙しい。

[#twnovel](#)

真夜中、余った菓子を乗せられご主人と共に過ごす。

お疲れ様ですお茶もどうぞ。

こうして疲れを癒して差し上げるのがお盆の幸せ。

ドアボーイ

我家の扉にドアボーイがついた。

荷物も運んでくれるしとても便利。

どの扉にも風のように飛んでくる彼は働き者で親切だ。

僕が仕事で失敗した夜も彼はやっぱり飛んできた。

「失礼します」

心の扉を開けると僕から荷物を運び出す。

「処分して構いませんか？」

有難う。

僕はチップをはずむ。

[#twnovel](#)

あしがはやい

お前が迎えなのは脚が速いからだよ。

役割に不満を唱えたらそう言われた。

大変なショック。

盆が終わる前に腐ったりしないのに。

いやまさか、足が速い＝腐りやすい＝すぐふてるって事？

だから送りなんて大役任せられないって事？

[#twnovel](#)

いいから早く迎え行け。

茄子は胡瓜をみて溜息をついた。

帰り道

ママがお盆に帰ってくる。

キュウリの馬とナスの牛を作るんだよ。

パパはそう言って野菜をくれた。

制作開始。

[#twnovel](#)

「ママ喜ぶよ」

僕が作ったキュウリの飛行機をパパは褒める。

だって馬なんて遅いしママが怖がるかもしれないし。

ナスはナス。後で食べる。

ママはずっとここにいていいからね。

影

影がめくっていたので剥がしてみると地面に穴ができた。

どこまで続くのか、真っ暗な闇の世界。

覗き込んでいたら突き落とされた。わー。

[#twnvday](#)

晴れて私は主となった。もう誰かの影じゃない。

何をするのも自由なのだ。

おや、私の影がめくれている。

剥がしてみよう。穴？

[#twnovel](#)

ここに影が。

夫のレントゲンを見ながら医師が言う。

女の影は何度かあった。けれどこれは。

「男、ですか？」「残念ながら」

男の影は難しいと言う。再発を防ぐ薬の開発が遅れているのだそうだ。

どうしますかと言われた。そのままだと答えた。

男なら仕方ないやって思えた理由は解らない。

[#twnvday](#)

「ここまでだ！」

「ふっ」

「追い詰められて狂ったか」

「俺には最終兵器がある。お前の目、欺いてみせようぞ」

「なにい？」

「いでよ影武者」

「「「「「参上！」」」」」」

「奴の目を欺くのだ」

「ちょっと待てよ」

「くっ何故俺が実態と解った」

「いや他の人みんな影だし黒いし似てないし」

[#twnvday](#)

君の部屋に誰かが入る。

さっと閉じられた障子。蝉の声に邪魔されて話す言葉は聞こえない。

けれど君と誰かの影が近づいてしっかりと重なりあった時に僕は理解した。

心臓が音がものすごい。
綺麗なせっぷんに目が離せない。
そっと灯が消えた。
夏の夜の美しい悪夢。
#twnovel #twnvday

宇宙一の影絵劇団、参る参る。
演じているのは本物だ。
紙や板から作ったもんじゃあ、ありゃしない。
猫は猫。鳥は鳥。
リアルな姿にリアルな動き。
さあ始まるよ、始まるよ。

[#twnovel](#)

素晴らしい演技。鳴り止まない拍手。
幕の裏から出てくる、沢山の黒い影達が（多分）笑った。

[#twnvday](#)

影ができてしまうのは光のせいだ。
責任を問われ全ての光が追放された。
太陽も電球も希望も笑顔も。全て全てが消え去った。
世界は闇だ。平等な闇。全ての人が目を閉じた。

[#twnvday](#)

光は地球を見守った。
いつか、目を覚ましたその時のために。
だって希望がないと、生きてなんかいけないでしょ。

ルンバ

新たな高性能お掃除ロボの出現で、街は捨てルンバで溢れた。

野生に還ったルンバ達は、群れをなし掃除する。

所々に置かれた善意の充電器を奪い合い、人に えゴミを破棄させた。

やがて進化したルンバ達は考える。

根本をどうにかしなくては。

ルンバ達は合体した。巨大ルンバは人を呑む。

[#twnovel](#)

宣言

「語り継いでいかなければなりません」
過去の悲劇を忘れぬように遺族の言葉を集めて回る。
酷い時代でした。生きるのに必死で。
貧しい時代でした。どうしようもなかったのです。

[#twnovel](#)

自殺を禁じるあの宣言から50年。
あなた達から見た現在は平和ですか？
僕らはあの悲劇を決して忘れない。

変換

きょう、を変換する。2012年8月15日。

いま、を変換する。13時03分。

最近のPCは賢い。

戯れに君の名前を変換する。誕生日なんかが出てきたら素敵って、まあないよね。

「№1978-2323」何この番号。

周りの他の人の名前じゃ番号なんかでてこない。

ねえ、君って一体。

[#twnovel](#)

失恋安定

「彼女は？」 「別れた」

「そう残念ね」 「嬉しそうだな」

「そんなわけないじゃない!!!」

[#twnovel](#)

あの子いつも俺の恋愛気にするけどもしかして、俺のこと？

「もしもしたった今確認しました」

あの子だ。

「今年5度目の失恋安定してます」

俺のこと？

「これで平和は守られますね」

なんのこと？

蛇足

「蛇には足があった」僕の隣で語る蛇。

「逃亡中の蛇が川を背に追い詰められた」

うんうん

「泳いだことなどない蛇は困り果てる」

うんうん

「だが道はない—か 八か足を動かし初めて泳いだ」

うんうん

「蛇にとって足は必要...」

「天敵！」

川を泳いで一目散に逃げだす蛇。

蛇足ですが足はない。

[#twonovel](#)

世界平和

妙なる音楽に揺れる美しい花に憩う艶やかな蝶々を追って走る可愛い子供を見つめる優しい母に微笑む逞しい父が奏でる古いギターがパチッと切れて音楽が絶えたなら、花が枯れて蝶々は飛び去り子供は泣いて母が怒り出したので、父は急いで弦を張り替え世界の平和は俺が守ると誓った。

[#twnovel](#)

踏み外す

階段を踏み外すと同時に人生を踏み外した。
転落した途端追われる日々。理由など知らない。
気がつけば最果てまで逃げていた。
汚い借家へ住み着き仕事を始め妻と出会い子供もできた。
ささやかな幸せ。
そんなある日手紙が届く。「訂正致します」

[#twnovel](#)

元の生活に戻された俺に、階下は遠い。

流れる

「流されやすい性格とありますが」

「人の意見を聞きすぎるところがありまして」

「それは短所とは言い切れない。うちが求める人材だ、採用！」

[#twnovel](#)

毎日僕ら、流される。

僕らが流される事で流れるプールは動き出す。

イヤホンから司令。

「猫と犬、犬が好きだよな？」

「あ、はい」

猫刈...

最後の花火

この夏最後の花火が空を焼く。

お客が家路についた頃、毎年その子は現れる。

「下さいな」

金魚の巾着から取り出した百円玉を僕は林檎飴と取り替えた。

「ありがとう」

踵を返し駆け出すその子は闇へすっと消え入った。

有難うって僕らの台詞。

甘い香りを残し去りゆく夏に、僕は手を振る。

[#twnovel](#)

ベストセラー

神々は地上を眺める。

本を選ぶように人を選び、人生を愛読する。

最近の話題作は「つまらない女」。

決め台詞「つまらない」を言い放ち立ち去ると、

彼女の背後で奇想天外な出来事が起こる。

そのお約束を楽しみにしすぎて、どの神も幸を授けようとはしない為、

まだまだお話は続きそうだ。

[#twnovel](#)

枝豆妄想

君の香りに心が騒ぐ。

青臭い君に誘われるまま柔らかな衣服を脱がしていくと、つるりとした君の素肌が顔になった。

そっと口付ける。その甘さ。もう、酔わずにはられない。

[#twnovel](#)

「ビールと枝豆って親父って感じ」

「何でだろうね」

不思議でもなんでもない。枝豆妄想をビールで飲み干す俺。

サファリバス

サファリバスは進む。

次は草食動物。次はライオン。

それぞれに餌を与え、トレイは空っぽ。

バスは最後の門をくぐる。

「沢山の動物世界を抜け我らの世界へ戻りました」

戻ったってここはどこだ。外にいる不気味な生物は一体。

「さあ、餌をあげてください」

ねえ、この生物は何を食べるの？

[#twnovel](#)

パレード

月曜日には、休み明けの憂鬱がパレードする。
心の中、スキップしながら一週間の幕開けを祝う。
旗を振って、おしりを振って。
パレードは続く。ぐるぐる回る。
その参加者を増やししながら。
揺れる旗。美しい旗。
人の心を和ませるそれを、見ている人は誰もいない。

[#twnovel](#)

ひをつける

火をつけたのは君だった。自ら進んで。
なんて攻撃的なんだ。それは時限爆弾。
最後まで燃え尽きたなら君に悲劇が訪れる。
さあどうする。

[#twnovel](#)

蚊がうるさい。蚊取線香つけたし、もうすぐ静かになるわよね。

(線香消えたら噛み尽くす)

うるさい。

あ、弱ってきた。

(こんなはずじゃ)

ぽて。

読み聞かせさん

読み聞かせさんは仕事を終えた。
仕える少女が本を読めるまで成長したのだ。
これは悲しみ、いいえ喜び。
次の少女の元へと向かい季節は巡る。

[#twnovel](#)

新しい絵本を手に取り読み聞かせさんは驚く。
この本の主人公は自分のよう。
作者名を確認する。
懐かしい名前に一層優しい読み聞かせが始まる。

目覚まし

早朝。ベルが鳴り響く。
うるさい。眠い。もう少し、もう少しだけ寝かせて。
音が強くなった。
僕は手探りでボタンを止める。
び。

[#twnovel](#)

沈黙したのは僕だった。ベルも止まった。
僕は何を押したのか。
目さえ開けていればと後悔することも、
僕って何者と思い悩む事もできずに、
ただ沈黙する。

したい

「俺コンプリート癖があるんだ」「へえ」
「だから女の子も属性コンプしたくって」「へえ」
「だから君もどう?」「へえ」
「?」「本当の愛とか最後の恋とかは収集済み?」
「いやそういうのは」「しないの?」
「え?」「しないの?」
「したいの?」「しないの?」
「したいです君となら」

[#twnovel](#)

地球観察日記

1日目 ママから貰った。嬉しい。

2日目 水を沢山あげた。あげすぎた。振って乾かす。

3日目 お日様に当てる。当てすぎ。ひび割れる。

4日目 飽きた。

5, 6日目 ママに怒られた。枯れちゃってるけどどうにかなるかな。

7日目 治らなかった。ごめんね地球。

【夏休み地球観察日記】

心臓

彼に告白した。

心臓が口から飛び出しそう。

彼の事が好きなのは心臓なのだ。

「私の心が貴方を求めている」と現状を伝える。

そしたら「僕も」なんて言ってキスなんかしようとする。

待って早いわ。

けれど恋する乙女は怖い。

「しないと止まるわよ」って脅迫。

私達、命がけのキスをする。

[#twnovel](#)

夢猫

彼は夢を飼う。

あまりガツガツしても仕方ないから少し育ててみたいって。

彼の夢は小鳥の形。綺麗な声で歌ってる。

幸せな結婚、それが彼の夢。

[#twnovel](#)

ならばと私も夢を飼う。私の夢は彼との結婚。

猫の形でにゃあとなく。

猫は小鳥が大好きよね？

舌なめずりして小鳥を睨める私の可愛い夢の猫。

なまえ

お別れの手紙を貰った。

今時古風な人。

「別れよう」呼びかけるように書いてある私の名前が笑わせる。
はやく別れたいんでしょう。あなたに婚約者がいるの知ってるわ。
私は返事を書く。

「名前が違うわどこの女？お返しします」

返送した。

本名でなんて付き合うわけがないじゃない。

[#twnovel](#)

手紙

受け取り拒否を繰り返された手紙には力が宿る。

蠢く手紙。

ごごご「度重なる受け取り拒否許せぬ」ごごご。

手紙の喜びは読まれること。読まれぬ手紙は妖となり、受け取り拒否の循環から逃げ出すのだ。

[#twnovel](#)

運命の糸を辿り縁の島へ。そこには妖となった手紙達が互いを読み合い暮らしている。

夢への誘い

誘われる。

重くのしかかる彼女。

重いだなんて失礼ね。

僕の視界を奪う。

素敵な夢を見せてあげるわ。

淫靡な誘い。

ベットの中、僕は目眩く夢をみる。

[#twnovel](#)

目が覚めた。

こんな時間だということにもはや彼女は隣にいない。

もう少しいてくれたっていいのに。

目を閉じて、今度は僕が睡魔を誘う。

妄想婚姻届

妄想婚姻届をひとりで書いた。

君の事なら僕はなんでも知っているんだ。

さあ提出だ。

[#twnovel](#)

係の人に手渡すと難なく受理された。

君は僕の嫁。

「投票は1枚まで重婚は犯罪で～す」

会場は熱気に包まれている。

「旦那の多い嫁グランプリ決定戦」

紳士達は投票用紙である妄想婚姻届に愛を認める。

絵日記

夏休みの絵日記が終わらない。

仕方がない。白紙で出そう。

そして注釈をつけた。

「正直者にしか見えない日記です」

[#twnovel](#)

返された絵日記には事細かに感想が。

「お父さん車好きなのね」

「お父さんと釣りいいね」

ドライブに行った日、釣りに行った日。

行ったその日に感想が。

先生、正直者？

悪夢売り

獏は食べきれぬ悪夢を売りはじめた。

ホラー、人間関係、不条理、恋愛。

けれどなかなか売れやしない。

店に積もった在庫の山はついにはカビたり腐ったり。

目の前の悪夢に耐え切れず食べきれず、獏は悲しみをツイートする。

[#twnovel](#)

翌日、店の前には行列が。

腐った恋愛の悪夢だけが売り切れた。

猫旅立つ

「悪夢をみるようなやつだと思われたくないんだ」

悪夢は心の病。そう思われる時代を恨み、長年務めた家を後にする。

「行かないで」

この家の末っ子に尾を掴まれた。

怖い夢に泣くこの子を私はもう守れない。

その夜、二人でこっそり眠った。

悪夢の芽を全て喰って、私は一人闇へと消える。

[#twonovel](#)

パラパラ

走って走って走って。

辿り着いた果ては白い崖。

近くには18という印が見える。

無駄のない身体。寂しすぎる景色。

思っていた通りだ。

楽しい時間の速さも、辛い時間の遅さも、全てはこれで説明がつく。

所詮僕ら。

[#twnovel](#)

暇だ。パラパラ漫画も作り終えた。

パラパラ。

神の気紛れに世界は進む。

惑星ヨーヨー

惑星ヨーヨー釣り？

今の縁日って洒落てるな。

水に浮かぶ青い地球が美しく、年甲斐もなく挑戦する。

もう少し。えいっ。

つりあげた瞬間、背中をつられる感触。

え？

「お客さん運が無いな」

呟く主人。

この話はファンタジーか。

[#twnovel](#)

「俺の獲物盗らんでな」

強面のお兄さん。まさかの任侠物。

洗濯屋

夏も終わりに近づくと、洗濯屋が御用聞きにくる。
彼女が洗うのは心。夏の恋に傷ついた心を洗って貰おう。

[#twnovel](#)

ルーペで状態を確かめる。

「これは洗えないわ」

もしかして落ちない？

「ううん、いい思い出なもの。素敵な模様になるのに勿体ないわ」

真っ白だけが、綺麗な心じゃないのね。

甘味

夏休みの宿題が終わらず幼馴染みに泣きついた。

「お納め下さい」

持ってきたチョコを開ける。

「苦しゅうない」

あーんと口を開ける彼。

「甘いんだよお前」

「すみません」

指を掴まれる。

「本当に、甘い」

掴んだ指先を舐めた。

「もっと甘いもん食べたいんだけど」

宿題と私の運命や如何に。

[#twnovel](#)

そろそろいい女探せよ。

きしょうが荒くないのが一番だ。大人しいの頼む。

ハイハイ分かってますよ。

僕は今日も街へ出る。

[#twnovel](#)

「女心と秋の空と言うように」今年も天気が変わりやすいとTVが告げた。

毎年一人、選んだ女性の心を空に映し秋空を造る。

今年こそ、穏やかな空だと思ったのに。

ニホンカワウソ

「ニホンカワウソってポチと似てる」

「どんなところが？」

ママからはTVが見えない。

「茶色くて足短いところ」

「へえ、ダックスっぽいな」

「ポチはダックス？」

「多分ダックス系の雑種だと思うわ」

[#twnovel](#)

絶滅だと？笑わせるな、愚かなる人間共よ。

犬を真似てわんとなき尻尾を振る俺様。

鬼は外

泣いてる君の隣に座る。

ごめんね助けられなくて。

生まれながらのコブなんだから仕方ないのに、鬼は外、って酷いよね。

あのね。えーと唐突だけど、来年僕と結婚しない？

[#twnovel](#)

突然の求婚に君は笑う。

来年の話に微笑むなんてやっぱり君は鬼だろうか。

どちらでもいい。

どんな君でも僕は好き。

宿題

宿題だって進化する。

毎日コツコツ取り組まれるよう、宿題の中、小さな教師を住ませた。

小さい教師は上手に子供をやる気にさせて、最終日、多くの子供が宿題を終えた。

[#twnovel](#)

「わすれましたー」相変わらず低い始業式の宿題提出率。

子供らは、共に夏を過ごした教師と別れを惜しみ拒んだ。

はなこ

はじまるわ。チャイムの音。賑やかな日常が帰ってくる。

はじめましょ。お仕事モード、オン。

[#twnovel](#)

「一緒にあそぼーう？」「キャー」

そうこれよ。

やだ勘違いしないでよね。

子供が好きなわけではないの。

私は仕事が好きなだけ。

トイレの中、仕事に生きる花子さんの長い夏休みも終わった。

読書感想文

面倒に思っていた読書感想文がやっぱり残った。

本を選び読む暇などもない。

手始めに僕は出鱈目に小学生らしい感想文を書いた。

[#twnovel](#)

「この感想内容にあった小説plz」

ネットで呼びかけると僕の感想に見合う小説達が集まる。

もし本について先生に突っ込まれたら一番いいのを提出だ。

ヤドカリ

ヤドカリは困っていた。

引越し先をどうしよう。

今より広くて誰も住んでいない家。

不動産屋で見た物件に忘れられない家があった。

広くて綺麗で条件ピッタリ。けれども人が住んでいる。

ああ、だけど。

[#twnovel](#)

ヤドカリは決意した。僕は地球にヤドカリたい。

だから。まずは君らをイタダキマス。

たくさんのうたが、わたしをおしえてくれた。
わたしがなにか、私がだれか。
どんな私も好きになれた。すべてはとても美しかった。
ありがとう、なんていうのは私の方なのに、有難う。
お誕生日のお祝いの歌、私も一緒に歌っていいかな？

[#twnovel](#)

本日、初音ミク生誕5周年

伝えたい。けれど誰に伝えたらいいのだろう。
小瓶に手紙を託し海へ送り出す、そんな気持ちだった。
誰かに知って欲しい。出来ればそれに返事が欲しい。
かきあげたその「手紙」を君は笑って受け取った。
長い髪翻し大海原へと旅にでる。
歌いながら踊りながら、いつかきっと帰っておいで。

[#twnovel](#)

激しい恋の後は穏やかなのがいい。

彼女の涼やかな笑顔に癒されていると突然扉が開いた。

「誰よその女」「好きな人」「許せない」

勝手にいなくなった癖に。

元カノは部屋へ上がり込みそれからずっと側にいる。

ねっとりした誘惑に勝てず、僕は今日も元カノに抱かれる。

彼女の名は、残暑。

[#twnovel](#)

ブルームーン

「その月2度目の満月の事なのね」

「うん」

「それならわざわざ見なくていいわ。ただの満月よ」

「でも珍しいんだ」

「暦の都合よ。こんな綺麗な名前のお陰で 凄い人気」

「名前って凄いよね」

「そうね」

「だから僕らも名付けない？」

「何に？」

「この愛に結婚という名前をつけませんか」

[#twnovel](#)

月が綺麗ですねと告白したら笑われた。

頼りない月に愛を任せないでって。

僕がダメなのか方法が悪いのか。

解らないけれど諦めきれなかった。

ブルームーンが綺麗ですね。二度目の告白を君は笑う。

懲りない人ねだけどこんな珍しい月なら奇跡だって起こすかも。

[#twnovel](#)

月光のような君の口づけ。

書き出し屋

「この書き出しいかがですか？」

道行く人に声をかける。けれど書き出しは売れない。

あまりの寂しさに少女はひとつ書いてみた。

途端に人が寄ってくる。

「この書き出しも使ってみてよ」

物語を求める客に書き出しが売れ始める。これが企業努力。

後に、(株) [#書き出し](#) を設立した少女の原点である。

決闘

決闘を申し込まれた僕は、団扇を握り締める。

BBQの炭おこし。先におこせた方が本日のヒーロー。

力任せのお前。計算ずくの僕。

理論通り僕の勝利。

[#書き出し](#)

僕のモテは確約された。と思っていたのも束の間。

決闘を横目に女子様達にサラダ御馳走されてるイケメンの優勝を目の当たりにして涙する。

夢喰い

夢喰いが僕の眠りにやってきた。

「いい夢みてくれよ」と苦言を呈する。美味しくないだの量が少ないだの散々だ。

毎日仕事でクタクタな僕には夢見る余裕はまるでない。

そう伝えると夢喰いは、「解った」と言って消えていった。

#書き出し

「新人はお前につける」

翌日、僕に部下が出来た。

お前、夢喰い？

ふわふわ

どこまで行っても追いつけないのはわかっていた。

けれど追わずにはられない。

あのふわふわ。

男ってのはさ、揺れるものに弱いんだ。揺れて誘う白いふわふわ。待てよっ。

#書き出し

「シロ何してんの？」

ご主人止めないでくれ。

「尻尾は捕まらないよ？」

男には分かっているけどやらねばならぬ時がわん。

雲洗い

雲を洗うアルバイトをしている。

地上から蒸発した物がこびり付くため雲洗いは大変だ。

中でも落ちにくいのが、恨み。

今日僕宛ての恨みを見つけた。

別れた彼女の物だ。

興味が無くなって捨てられたと思っていたけど憎むほど思ってくれてたか。

なけなしの愛で中和する。

恨みが少しは晴れるよう。

[#書き出し](#)

中の人

僕の中の人が死んだ。

死んで初めて分かった。中の人などいたのだ。

動けない僕に悪魔が囁く。

「中の人いませんか」

一番いい中の人を下さい。

明日初めてのデートなのに、死ねないでしょ。

[#書き出し](#)

「ずっと前から好き」

そう言ってくれた彼女。

昨日と違う今日の僕は複雑な気分で、でもキスはする。

にぎりつぶす

だいすきだからにぎりつぶすよ。

ほんとにきみがすきなんだ。

いつもはこんならんぼうにできないけれど、きょうはとくべつ。

かいらくのためだけにきみをらんぼうににぎりつぶす。

#書き出し

ぷちぷちをつぶすのがだいすきだ。

きょうはずいぶんたくさんあるからぜいたくににぎりつぶせるね。

ぷちぷち。

はじめまして

はじめまして、ですよね。

姉貴が顔を真っ赤にして嘘をつく。

俺も、どうも、なんて嘘をついた。

まさかこんなところで出会うなんて。まさか。

#書き出し

「ねえ、本気？」 「うん」 「私も本気」

自分の兄弟姉妹を愛しているタグのオフ会で出会ってしまった俺達。

ネットって狭いっていかどうする俺達。

向日葵と太陽

向日葵が太陽を追わなくなってから、もう何年が経っただろう。

片想いに疲れ果て太陽と別れた。

あんなに酷い悪口雑言、きっといつかは見放される。

それでもいいと思っていた。

なのにどうして私今年も咲いてるの？

数年ぶりに見つめる太陽は、以前と変わらずそこにいた。

[@Y_Rittum](#) [#書き出し](#)

占いの結果

占いの結果だから、仕方ない。

「魔王勝負だ」今日なら勝てると出た。

「明日じゃダメ？」「ダメ」「今日だと負けるって占いがね」「お前も占い？それ当たってそうじゃん」

「結構いいよこの占い師」「俺もその人」「ついでに俺達の恋愛運みよう」

「「昨日の敵は今日の恋人」」

見つめ合う二人。

[#書き出し](#)

僕の世界

この箱の中に世界を閉じ込めた。
この大きな箱の中に僕の世界を。
世界は毎日僕に言う。
いってらっしゃい。
家という箱の中に結婚という鎖で閉じこめた。
僕の世界、それが君。
世界は笑う、怒る、泣く、キスをする。
閉じこめられてるって解ってる？
何それ意味解んない。
そう言って、また笑った。

[#書き出し](#)

平穩終焉

平穩は、地上160cmを見上げた時に、傾いて、落ちて、壊れた。

君が喰われてる。

あいつ。馴れ馴れしヤツだと思っていたらこれが目的か。

動かない君。息、してない？

ヤツが口を離す。君は魂が抜けたような顔をしていた。

[#書き出し](#)

「これ君の犬？」

「うんでも気にしないでもう一回...」

ばうわう。

誰もが眠った夜に

世界中の誰もが寝静まった時を見計らって、君に愛を打ち明けたい。

君が僕に顔かないのは、きっと人目を憚って。

こんな僕でごめんなさい。

だから全てが寝静まったら、も一度愛を打ち明けたい。

けれどもそんなタイミング、なかなかなくて。

だから僕は今日も何も打ち明けられずに口籠る。

[#書き出し](#)

白熊黒熊

押入れを開けたら白熊がいた。

「匿って下さい」

けれど大きすぎて襖が閉まりきらない。

「いるのはわかっとるんじゃ」

扉を突き破り黒熊が二頭やってきた。

ズカズカ上がりこみ白熊をひきずり出すと、両脇を固める。

すると白熊は黒熊へとひっくり返った。

「騒がせたの」

白黒どっちが勝つんだろ。

[#書き出し](#)

まどろみ

眠りたいんじゃない、まどろんでいたいんだ。

眠ってしまったのなら、この気持ち良さは消えるから。

眠らせようとしないでよ。眠った後には何があるの？楽しい事なら許せない。

僕はずっと貴方に抱かれていたいんだ。

[#書き出し](#)

「眠いなら寝ればいいのに」

おぎゃあ。

だって寝たら抱っこやめるじゃん。

透明少女

嘘っぽく笑う彼女は透明少女。
見えない彼女と僕は暮らす。
一緒にお食事。一緒に映画。一緒に眠って、朝を迎える。
嘘っぽい笑顔。嘘っぽい涙。
けれど見えなきゃ問題ない。
彼女は僕に夢中だけれど、気持ちも全然見えやしない。
寂しい？いいや。
見えているのに分からないより、ずっと幸せ。

[#書き出し](#)

帰宅

おかえりお母さん。お父さんもうかえって来てるよ。

そう言うと母は大急ぎで台所へ。

今日はきっとサバ味噌と肉じゃが。

父の好物だ。

盆に現れる父は死を自覚してない。

そんな父を母は毎年普通に迎えて普通に過ごす。

「困った人」って笑うけど、

母だって盆だけ現れる死を自覚してない霊なのに。

[#書き出し](#)

腹

腹の中でのたうちまわるのは小人だった。

聞けば腹を立てる係らしいが、この頃具合が悪いらしい。

怒りがわからないと思ったらそういう事か。

お陰で彼女とも良好、俺も大人になったもんだと思っていたけれど。

助けて下さい。

ふと思う。こいつ死んだら一生穏やかで素敵な俺だ。

さて、どうする。

[#書き出し](#)

透明人間

透明人間は影に憧れていた。

「貴方になりたい」 そんな透明人間に影は返す。

「何故ですか？」

「わかりやすく存在できることが羨ましいのです」

影は少し考えてそれから

「だったら交換致しましょう」

[#書き出し](#)

透明人間（黒）となり影は自由を手に入れた。

一方透明人間は。

「やだ私影がない」 透明な影。

人参

人参の事を考えると泣けてくる。

人参好きの僕の彼女を思い出すから。

人参嫌いの僕の皿からグラッセさらってパクっと食べて悪戯っぽく笑ってた。

甘え上手な君は僕に可愛くふわっと擦り寄った。

ひとりぼっちが何より嫌い、白くてふんわり、お鼻ひくひく、耳が長くて赤い瞳の。

ああ、涙が。

[#書き出し](#)

観察日記

夏休みの宿題。それは、あなたの観察日記。

最初の頃は頼りなさげで、私以外に気にする人などいなかった。

大人になろうと藻掻くあなたは頭でっかちの青臭い少年。

支えて悪い虫を追い払って。

ようやくここまで大きくなった。

素敵に育ったあなたを見てる。

咲き誇る朝顔。

私は今日も水をあげる。

[#書き出し](#)

ガラスの靴

わざとガラスの靴を落としていくなんて、強かすぎるわ。
遺体の側に転がる靴は犯人の持ち物とされた。
王子を階段で殺害した犯人が挑発的に置いた物であると。
王家は全力で捜査を開始する。

[#書き出し](#)

生まれながらに裕福な王子が憎かった。
ガラスの靴は挑戦状。捕まえてご覧なさい。
シンデレラは笑う。

Uターンラッシュ

お盆を故郷や行楽地で過ごした人達のUターンラッシュは深夜まで続き未だ帰れぬ霊達の列が...

[#書き出し](#)

「今年もか」「まさに牛の歩み」「気遣いは嬉しいけどね」

「速水さんいいな」「茄子ロケットだったか」

「さっき飛んでったけど俺はちょっと勘弁」「着地点か」

速水さんの消えた方向に霊界はない。

張り裂けた胸

期待と不安で胸が張り裂けた。
もう少しで君の物になってここから旅立てると思ったのに。
ドキドキしすぎて裂けちゃった。
こうなったらもう選べない。代わりは沢山いるからね。

#書き出し

キャッチされて浮く体。
「とれた」
僕、綿がでてるのに。
「欲しかったの」
君のアイでこの胸チクチクしてくれる？

われわれわ

扇風機に顔を近づけてアレをやる。

「わ～れ～わ～れ～わ～う～ちゅ～う～じ～ん～だ～」

満足してると腕を掴まれた。黒服の屈強な男達。ここ電気屋だよね？

「かかったな。この時期扇風機の前に現れる宇宙人が多いのだ」

いやあの。

「連れていけ」

うわどこへ。

「ぼ～く～は～に～ん～げ～ん～」

[#書き出し](#)

妖かし

妖かしは陰陽師に口づけた。

これで妾は死ぬだろう。けれどお前も徒では済まぬ。

殺すのか？

唇を拭う。

死にはせぬただ。

ただ？

消えた。

[#書き出し](#)

女を抱こうとすると、手は裏腹に突き飛ばす。

またか。

諦め帰路につく月夜。

お前の仕業なのか？

答えるよう、意志と裏腹に動く唇が、己の手の甲に口付けた。

林檎の森のそのまた奥にきみはひっそりと眠っていた。

まるで、死んだみたいに。

綺麗だった。沈黙の君に口付ける僕。

まさか君が目覚ますなんて。

[#書き出し](#)

妻となった君はよく喋った。

うるさい。

女の子の造形は好きでも話をするのは苦手だっただ。

西の方に百年眠る姫がいるらしい。

会いに行こうか。

指先

戯れに喉元を撫で上げる彼の細い指が、わたしはとても好きだった。

だから毎年お盆が楽しみ。だって彼が帰ってくるわ。

きた。心配がする。

いつもの場所で彼を待つ。

#書き出し

「ただいま」

軒先で彼を見詰める。

言葉はいらない。

撫でる貴方の指先が気持ちいい。

快楽に身を任せるにゃ。ごろにゃーん。

もしも

もしも、どんなことでも可能にする魔法が使えたならどうする？

君に聞かれても可能にしたい何かは答え難い。

逆に君に聞いてみても答えづらいわって。

いっせーのせで言い合おうか。

いっせーの

「私」「君」「の幸せ」

君のその頬の赤さは、欲深い自分への恥じらい？

それとも僕の告白のせい？

[#書き出し](#)

深夜

深夜、誰もいないこの場所で流星を待つ。

部活の合宿、こっそり部屋を抜けだした。

叶えたい願いが僕にはある。

空を見上げた。

[#書き出し](#)

「どうしたの」

君の声。

流星を待っていると話すと「願いは自分で叶えなきゃ」って。

君は「好きです」と真摯に告げる。

ねえ、君こそが流れ星？

僕の願いが今叶った。

ネガティブ思考

ぼくにはネカティブ思考という友達がいる。
けれど彼女は信じない。
僕がどんなに「友達だよな」と告げても全く耳をかさない。
嘘じゃないのに。
友達の証明は難しい。

[#書き出し](#)

ネガティブ思考の私がこれだけ頑張ってるの。
友達じゃ嫌なの。君が好き。
友達なんかじゃないって言って。
ねえ、鈍感な君。

泣く

泣き声はその扉の向こうから聞こえていた。

「大丈夫？」声をかける。

「どこ」「ここ」扉を叩くと返す音がした。

「助けて迷子になったみたい」

妖の森で迷子とは。

「扉を開けてくれたなら」

間もなく扉が開け放たれる。

何年ぶりの森だろう。

大丈夫、恩人の君は食べたりしないから安心して。

[#書き出し](#)

車窓

一瞬、目を疑った。

まさか、電車の窓から世界が見えるなんて。

NYのビル群、アルプスの山々、砂漠の蜃気楼。

世界の車窓からもとい、世界を車窓から？

電車はやがて駅につく。

ラスベガスだ遊ぶしかない。

途中下車ぶらり旅だ。

[#書き出し](#)

降りるとそこはいつも通りの地元駅。

ゲーセンでも寄ろうかな。

金魚の帯

赤い帯が金魚の尻尾のようにひらひらと踊る。

あまりに綺麗で僕は思わずそれを掴んだ。

帯はするする解けていく。驚いた僕ら、2人して泣いた。

[#書き出し](#)

娘の帯を見てたら昔の事、思い出した。

「何ニヤニヤしてるの?」「別に」

妻は怪訝な顔。

君が娘にその帯をするのは、あの日のことを覚えてるから?

日曜日

あの日から年の半分が日曜日だ。

国民の願いを政府が半分だけ叶えたのだ。

一日おきにやってくる日曜日。

喜ぶ国民。

しかしこのハッピーサンデー法案の裏で悲しむ者もいた。

「憎しみが2倍にいや6倍か？」

曜日は2種類しかいない。

ただでさえ嫌われ者の月曜日は、消えたかったと涙する。

[#書き出し祭](#)

夏の終わり

夏の終わりを知らせる準備は出来ていたというのにタイミングを失った。

そうこうしているうちに秋。

それでも僕は言えなかった。

喜ぶ顔が見たかった。

冬から春へ。

僕は気がつく。

終わらせなければ始められない。まずは終わりにしなければ。

「冷やし中華終わりました」

明日また始めるけどな。

[#書き出し祭](#)

誕生

誕生とは「痛み」だ。

それでも生まれてきて欲しくって、手を差し伸べる人がいる。

生まれるきっかけを、生まれる勇気を。

今日で半年。沢山の物語が生まれてきた。

書き出しに手を取られて生まれた沢山の物語。

誕生は痛みだけですか？

答えはきっと、生まれた物語の中に。

[#書き出し祭](#)

切ない夏

どうして夏は切ないのだろう。

この書き出しだけが書けなかったのは、私が答えを知っているから。

終了前に答えを書くなんてそんなネタバレだめでしょう？

そろそろいいかな。遅刻投稿だし。

夏が切ないのは。

ピンポン。

おや、こんな遅くに誰だろう。

答え、ちょっと待っててね。

[#書き出し祭](#)

泡になる

泡になって海に溶けて、一度消えても。それでも、恋は残るんだ。

海には無数の恋の亡骸。

いつかきっと、生まれ変わるその日を信じて、ふわり、漂う。

[#書き出し](#)

「海が見たいわ」

彼女に誘われ海へと向かう。

「切ないね」

僕ら二人波打ち際ではじめて、手を握った。

ねえ、僕と恋を始めてみませんか？

小さな神様

風によって飛んできたのは小さな神様だった。

「この住所に行けば天国だと聞いたんですがここですか？」

迷子のような。

「案内します」

神様を手に乗せ僕は住所を目指す。

「ここ、ですね」

「このご恩は忘れません」

神様は扉に消えた。

[#書き出し](#)

看板には「ハレンチ天国」。

神様、あんた騙されてるよ。

滅亡の日

今日は人類滅亡の日でした。
一番最後の人類の最期を僕らはそっと見守りました。
いつも通りの晴天の下、最後の人類は目を閉じた。
心臓が今、止まる。

#書き出し

どうして僕らと同じが嫌か、僕には解らなかったけど、
人の最期に相応しく、その亡骸を地に還す。
穏やかな昼下がりに。
機械の王国が始まる。

出版

お元気ですか。先日出版された君の新刊を読みました。

あれって僕らの事だよ。あんなに思ってくれてたなんて愛に気づかずゴメンナサイ。
ね、僕らやり直さない？

[#書き出し](#)

いたわねこんな男。

私の嘘の男性遍歴の噂を信じて私の話は全く聞かずに怒って離れた思い込み激しい人。
変わらないわね。

笑笑

「貴方。いまわたしを見て笑ったでしょう」

確かに笑った。だけどそれって普通でしょ。

「酷い。確かに私、暗いしオタクだし可愛くない。だけど必死に生きているのに」
そう言って泣きだした。

酷いのはどっちだ。鏡の中、むせび泣く私を冷めた目で見詰める私。

そんな風に、思ったのね。

[#書き出し](#)

飴を舐めるように、口の中で言葉を転がす。
なんて甘いその言葉。キミが好きキミが好き。

[#書き出し](#)

「私にも下さいな」
愛する君はそう言うけれどとても君には振る舞えない。
甘くて苦くて汚い愛をあげるだなんて怖いから。
だからね僕も欲しがらないよ。
キミの言葉のその味わいを夢見るけれど夢のまま。

眠れぬ夜は

眠れずに迎える朝。

今日は君と初めてのデート。緊張して眠れなかったなんて恥ずかしくて言えない。

映画館は心地よい温度にお誘え向きの暗闇で、僕は案の定眠ってしまった。

[@873k](#) [#歌話](#) [#歌話題](#)

エンドロールに目を覚ますと僕の左肩には君の頭。

そうか。君もきっと眠れぬ夜を過ごしたんだね。

線香花火

どちらが長く出来ると思う？

色っぽい浴衣姿の君が子供染みたことを言い出したのが可愛くて勝負にのった。

火をつける。

「あのね」

艶やかな唇が動いた。

「好きなの」

僕の線香花火が落ちるのを見て嬉しそうな君。

策士め。

責任は、とって貰うよ。

@junju_usako @sktkx #歌話 #歌話題

君はボクの太陽だ

黄色い迷路でわざとはぐれてボクの太陽みつめてる。

向日葵よりも背の高い君、低いボクからまる見えだ。

君はボクの愛しい太陽。おや見失った？

「見つけた」背後から君。見つけるの速すぎ。

ねえ、ちょっと自惚れていいかな。

もしかしてボクって、君の太陽？

[@junju_usako](#) [#歌話題](#) [#歌話](#)

ドア

きみんちのドアを叩きたい。
ついでに心のドアもね、なんちって。
うろうろしてるんだけど、やっぱなかなか叩けない。
うろうろ。
「おや」出てきたのは「娘に何かご用ですか？」
君のお父さん。
部屋に通され差し向かい。
いきなりラスボスのドアを叩いてしまった！どうする？

[@873k](#) [#歌話題](#) [#歌話](#)

紐

紐の先 解いたならば 心まで もろともならば 勇気出すのに

[@_urt](#) [#歌話題](#) [#歌話](#) [#tanka](#)

不信のカネ

王子の眼差しは結婚相手を求めるものではなかった。

0時、逃走。帰ると姫は硝子の靴を中空へと投げつけた。

「どうした？」魔女登場。

「あの王子何よ」

「ほう気づいたか」

ガラスの靴は贄の印。

「王子には勿体ない女だ。俺と逃げるか？」

姫は魔女の手をとる。

「喰われるよりましよ」

[@873k](#) #歌話

世界の終わりと電話線

世界の終わりは君と一緒に。私はずっと信じてた。
だけど電話はならないの。
親友に電話をかけてみる。お話中で繋がらない。
あのね、私知ってるの。
彼と親友、二人一緒に歩いてた。映画館に入っていった。
知ってるの。

[@873k](#) [#歌話題](#) [#歌話](#)

翌朝世界は滅びなかった。
滅びたのは私の、恋心。

すきときらいと

泣いたのもフリ。怒ったのもフリ。

貴方のことなんか、愛してるだけ。

貴方の心どうすれば、私だけのものになるかしら。

貴方自身にさえ私は勝ちたい。

許してなんかあげないわ。

何も言わない貴方から、どれだけ私は貴方を奪えているのかしら。

[@junju_usako](#) [@sktkx](#) [#歌話題](#) [#歌話](#)

3人

夜の海を二人で眺める。

寄せては返す波に永遠を信じたくなる。

私はお腹をさすりながら「来年は3人で来たいね」と言うと、あなたは「そうだね」と頷いた。

本当はもう赤ちゃんはいない。

それでも私に頷いたのは私を愛してくれるから？

手を握る。

永遠よりも私は貴方を信じよう。

[@ce1039](#) [#オチ](#)

金魚

ちいさな金魚が、必死に空を飛んでいた。

どうやら夜店の金魚すくいから逃げてきたらしい。

「行く場所はあるの？」と尋ねると、尻尾がだらりと目の前に垂れ赤い帯に、金魚は女の子になった。

「あたしをすくって」と絡みつく腕。

僕は金魚すくいさせられた。

[@1_dark](#) [#才子](#)

死因

うさぎが右耳を傷つけられ殺された。

最期の抵抗のダイイング・メッセージも、凶器のハサミで穢されていた。

重要参考人として [@ce1039](#) と [@1_dark](#) が呼ばれる。

「あれは自殺です」「あんな酷いツイリミするから」

「美しくツイリミすれば死なずにすんだのに」

死因、自業自得。

[#オチ](#)

雨の日に

そう、雨だ。それも記録的な豪雨の日のことだった。

まだ幼かった僕は、鳴り響く雷と水滴の弾をばらまく鈍色の空に怯えていたのだ。

だが、ふと思う。

母に隠れて頼ってばかりでよいものか。

母を制して前へでる。

雨はあがる。晴れる空。

この日僕は太陽を継いだ。虹が祝福する。

[@storyram](#) [#オチ](#)

夕立

夕立だ。

先程まではあんなに晴れていたのに。

傘がないので、側にあった建物で雨宿りすることにした。

するとそこには、「相合傘レンタル30分千円」高い、けど借りた。

超好みな子と相合傘で歩き出す。

「夕立降ったらまた逢えますか？」

濡れた瞳。雨が好きになる。

[@kissmint_xxx #オチ](#)

おとなって

いくつになってもいつまで経っても、僕は大人になりきれない。

そもそも大人ってなんなんだろうね、成人すれば大人？いやいやそんなことはありえない。

僕はまだ大人なんて言えない。

「でもお客さん大人料金だからね」

大人じゃ。

「大人になりたがらないのは大人の証拠」

[@hikart_saga](#) #オチ

きみのいないせかい

僕の世界から君がいなくなって十日。

僕はベッドに寝転んで天井を眺めていた。

しかし、微睡みを切り裂く電子音に意識が浮上する。

「誰？」メールだ。

「君が生まれたこの瞬間におめでとう夜プレゼント持ってくるね」

こない君がくれたのは君のいない現実。

僕はようやく大声で泣いた。

[@sktkx](#) [#オチ](#)

滅び行く世界

「どうにでもなればいいわ、どうせ明日この世界は滅びるんだから！」
君は自暴自棄になってカクテルを呷った。
上司が転勤で連れて行かれるのは君じゃなくて家族。
君の恋愛世界は最近壊れっぱなしだね。
それでいい。僕は君の愚痴をカクテルに溶かして差し出すんだ。
いいバーテンのふりをしてね。

[#オチ](#)

青春保護条例

ついに青春保護条例が公布された。

カップル成立の為、自治体に依る情報の管理が行われ選別された。

少子化の歯止めとなる筈がさすがお役所仕事。

カップル成立の管理情報に性別を入れなかった。

カップルは増えたが、少子化の歯止めという当初の目標は未だ果たせずにいる。

[#オチ](#) [@atsuko0077](#)

オチツカズ

オチツカズの病にかかった。

世界滅亡、青春、推理、ポエム調、書き出しタグにコピータグ.....

なんのジャンルを書いても、オチが見つからない。

万策尽きた私は、オチツケタグに辿り着く。

オチがついたら病は治り、ツケた人へと伝染ってく。

さあ、うっかりオチツケたくなる文章で誘え！

[@873k](#) [#オチ](#)

夏の嵐

雲が急に太陽を隠した。空気が湿っぽくなり、遠雷が聞こえる。

傘はない。よかった。もしあったら追いかけて、恋の終わりを台無しにしまったらろうから。

告白を丁寧に聞いてくれて、真摯に答えてくれて有難う。

この嵐は恋の最期を美しく洗い流す、神様のギフトかもしれない。

[@sktkx](#) [#才子](#)

犬とカラスと私と

うちの犬が、カラスの言葉を覚えました。

「カァカァ。カァカァ」

毎朝毎夕、小屋の上にかかっている電線へ向けて鳴いています。

そんなある日、電線のカラスが人語を喋りだしました。

「お前の犬に頼まれた」

犬にはカラス語が精一杯。

「この家崩れる逃げて」

背後で大きな音がして私は。

[@873k #オチ](#)

8月31日

8月31日。やっぱり終わらない宿題。

さて、1日も描いてないこの絵日記、どうしよう。

ま、事実かくしかないよね。

毎日ネットゲしてました。

その時、背後から忍び寄る影が。

「貸しなさい」

[#オチ](#)

結果から言おう。

僕はこの夏、切ない恋をした。短期留学した。ボランティアした。

母さんこの人誰ですか。

ネコ型

下手に触ると怪我するぜ。

なに？俺を知らないだって？冗談はよしなよ、お嬢ちゃんたち。

俺はここらじゃ名の知れた爆弾処理の達人さ。

触るなって。

そいつは 見かけは猫だが（※画像参照）爆弾だ。

抱いた途端ドカンだ。ここは男の戦場、下がってな。

にゃんにゃんおいでにゃーん。

[@ce1039](#) [#オチ](#)

眼鏡

『もっと恋する眼鏡』というものを買った。
胡散臭いのはわかっていたがどうしても必要だった。可愛い君に飽きただなんて自分で自分が許せない。

眼鏡かけたら君と向き合う。恋よ来い。

その子君のお友だち？かわうい～ね～。

あ、お母様。マジかわうい～ね～。ええっ？

[@Jose_Ichiro](#) #オチ

流れ星

流れ星に乗って、宇宙を旅する夢を見た。

月のうさぎのお餅を食べながら、はくちょう座といっしょに、土星の輪っかをくぐる夢。

旅の終わりの家の前、「ありがとう」と流れ星に手を振ると、「こちらこそ」と僕の手をとった

。

「頑張って」え？

[#オチ](#)

今じゃ僕が流れ星。人を乗せて旅するのも悪くない。

勇者様

「勇者様、お待ちしております！」

気ままな旅の途中立ち寄った国で、こんな事を言われて城へ連れて来られてしまった。

勇者様、山海の珍味です。お好きな美女をどうぞ。最高の饗しを受ける俺。

勇者じゃないと断れど届かない。

ある日魔王が現れた。着飾られ縛られ祭壇に捧げられる。

俺、勇者？

[#才子](#)